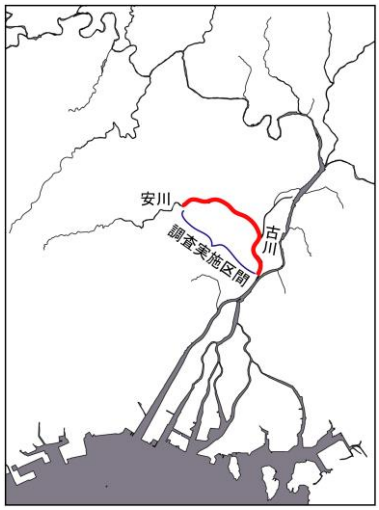
漁業権のない太田川支川（安川・古川）におけるアユ生息状況調査

（目的）

安川は安佐南区を西から東へと流れる安佐南区を代表する河川の一つで、中筋で古川と合流後、安芸大橋の下流約１ｋｍで太田川本流と合流する。令和２年は、この安川・古川に多数のアユが遡上していることを受け、アユ資源の状況を把握するために調査を行った。



（方法）

川を下流から上流へと移動しながら、全ての橋から上流側、下流側について、双眼鏡観察により１０ｍ四方のアユ生息数を計数した。次に、橋と橋の間の距離と川幅を地図上で読み取って流域面積を算出し、１０ｍ四方のアユ生息数から全生息数を計算した。

なお、生息数の推定には群れアユのデータは使用しなかった。

（結果）

令和２年６月２日、古川橋（西原）から光明寺橋（高取北）にかけてアユの生息を確認した。

全域に渡りほぼむら無くアユが生息しており、１００尾以上の群れは９箇所で確認した。生息が確認できた流域の推定アユ生息数は約７万尾であった。

（まとめ）

以上のことから、令和２年の太田川支川（安川・古川）におけるアユ生息状況について、以下のとおり概観できる。

① 今回調査した範囲において、推定約７万尾のアユが遡上し生息していた。今年と同様に、多数のアユが遡上していることを受け、平成２４年に実施した同調査では、推定約３～４万尾のアユが遡上し生息していた。

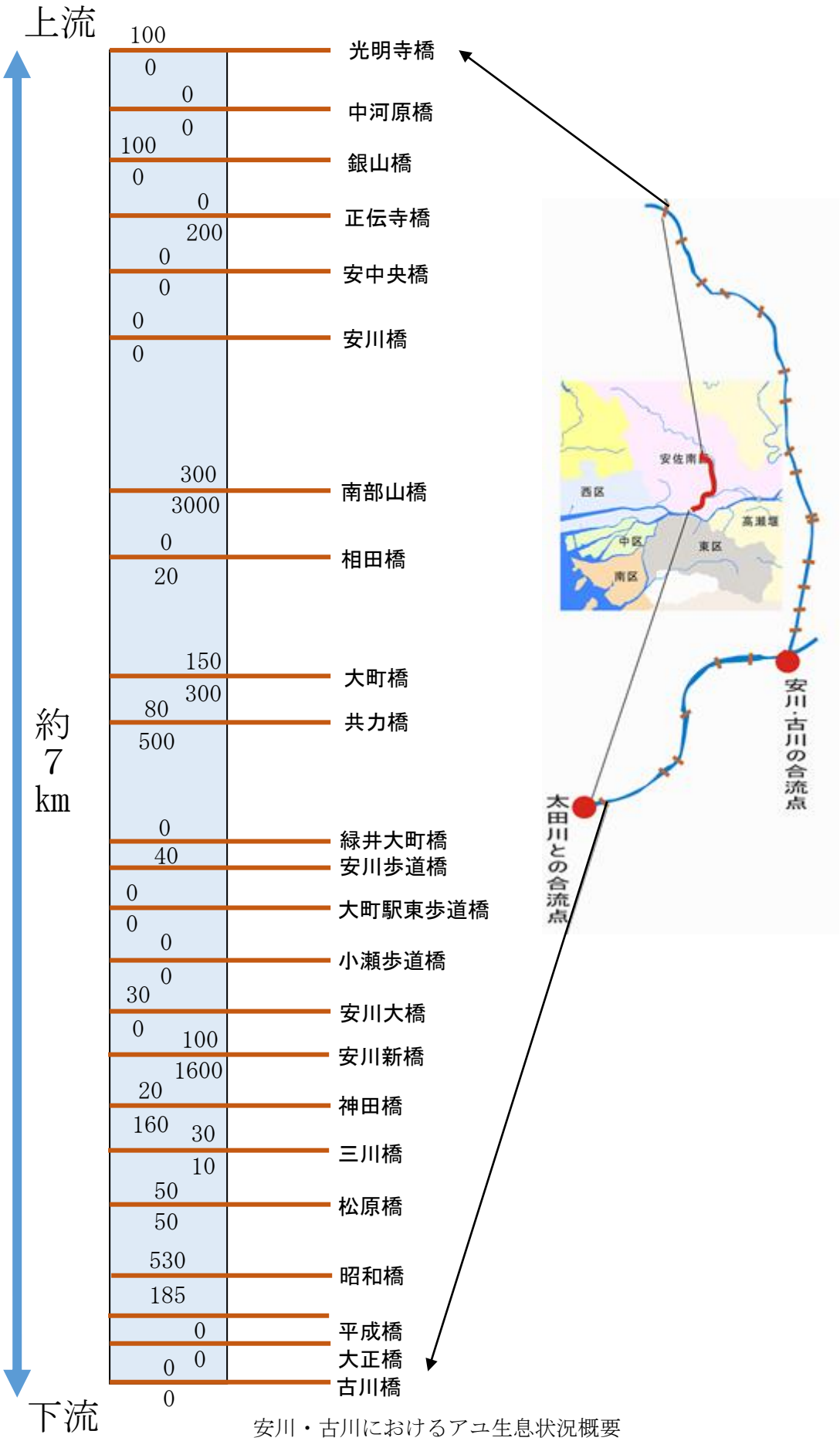
今年は平成２４年の時よりも、多くのアユが太田川支川（安川・古川）に遡上し生息していたことになる。

ただし、安川は河床材料のほとんどが砂であり、さらに、遡上したアユが高密度で生息していたため、餌料不足の状態であると思われ、小型個体が多い傾向であった。

② 調査中に地元の方にヒアリングした結果、今年は支流のアユの数が多いとの声が聞けた。

③ 令和２年３月に漁協等にヒアリング、さらに数箇所において橋から目視による観察を行った結果、今年の天然アユの遡上は、遡上開始時期が遅くとも３月中旬頃と例年に比べ早く、遡上数も例年に比べ多い年であった。

遡上時期が早かったため、本流と支流との間に水温差があり、アユは水温の高い支流を選好して遡上したものと考えられた。



安川・古川におけるアユ生息状況概要

※　数字は橋の前後における１０ｍ四方のアユ確認数